

■丸木利陽 御用写真師。明治から大正にかけて、皇族や華族、実業家など、社会的に地位の高い人物の肖像を撮影。

まるきりよう

開国開港・・・1854＝ 福井松平城下で、機織を家業とする竹内宗太郎・とりの長子に生まれる。名は惣太郎。

父は婿養子であったが、まもなく死去、母は新たに作之助を婿養子に迎え、3男1女をもうけている。

桜田門外変・1860＝ 6歳：

8月18日政変 1863＝ 9歳：

明治維新・・・1868＝14歳：

学問のすすめ1872＝18歳：

明治6年政変 1873＝19歳：

士族丸木利平の娘と結婚して婿養子となった後、異父弟笹次郎も後に山本家の養子となり、営業写真師山本誠陽になっている。

初の民間工場1875＝21歳： 新天地を求め、家族を置いて、実弟宗吉と福井を出て東上、途中で別れて東京へ、宗吉は青森に行く。

写真師になろうと、二見朝隈の写真館に入門し、その弟朝陽から写真術を学ぶ。

・・・1880＝26歳： *独立し、芝区新シ橋内の旧三条実美邸内に、写真館を開業。朝陽の一字を貰い利陽と改名。

明治14年政変1881＝27歳：

技術優秀で、陸海軍士官に好評を博し、名声が高まるにつれ、若手官僚、華族などもすれまでの鈴木真一や江崎礼二らの写真館から乗り換えてくるようになり、顧客が増大。

国民之友始・1887＝33歳： 嘉仁親王(後の大正天皇)が近衛師団を訪れた際、集合写真撮影に召され、

初の対等条約1888＝34歳： 前川謙三が入門。*エドアルド・キヨッソーネによる明治天皇の肖像画(御真影)を撮影し、地位を確立。

帝国憲法発布1889＝35歳： 元三条邸が国会議事堂の建設用地になったため、新シ橋角に移転し、石造りの新写真館を開業。この年、鈴木真一とともに、御真影と対になる昭憲皇太後の肖像写真を撮影、以後、御用写真師として、大蔵省印刷局の写真事業にも対応し、皇族や華族、実業家など、社会的に地位の高い人物の写真を撮影して行く。

帝国議会始・1890＝36歳： この年、山県有朋の肖像写真。第3回内国勸業博覧会に出品し、3等賞。

足尾鉾毒始・1891＝37歳： 三条実美の国葬の様子を江崎礼二らとともに撮影。

郡司千島探検1893＝38歳： この年、中上川彦次郎の肖像写真。この前後、年代不明ながら、主要財界人・文化人多数撮影。

日清戦争始・1894＝40歳：

日清戦争終・1895＝41歳： 写真帖「征清凱旋之盛況東京市奉迎」出版。

閉店時期は不明であるが、この頃までに朝鮮の仁川に支店を出店する。

子規句歌革新1898＝44歳： 弟子の前川謙三が渡米。

Bushidou・・・1899＝45歳：

この間、年代不明ながら、伊藤博文はじめ、当時の政府要人ほとんどを網羅する肖像写真を撮影、

教科書疑獄・1902＝48歳： 前川謙三が帰国し、丸木写真館に所属。本格的なレンブラントライティングによる撮影が始まる。

日露戦争始・1904＝50歳： 伊東末太郎が入門。以後明治末にかけて、裕仁親王(昭和天皇)、雍仁親王(秩父宮)、宣仁親王(高松宮)の幼少期の写真を撮影。

日露戦争終・1905＝51歳： {読売新聞}で、写真撮影について、単に形式でなく審美性を追求している旨、所見を述べている。

満鉄発足・・・1906＝52歳： 日本乾板株式会社が設立され、小川一真らとともに資本参加する。

韓国反日暴動1907＝53歳： この頃、内田百閒が写真館を訪れ、後に、回想文を書いている。

アヲチ 創刊・1908＝54歳：

伊藤博文暗殺1909＝55歳： 弟子の前川謙三が横浜で写真館を開業。日英博覧会に出品。

韓国併合・・・1910＝56歳： 根岸栄一郎が入門。

明治天皇没・1912＝58歳： *明治天皇の大葬の様子、関連する事物などを、複数の写真師で構成された謄写団の一人なる。裕仁親王(昭和天皇)が、陸軍正装、海軍正装、陸軍通常礼装姿で、大勲位菊花大綬章を佩用した写真を撮影。大正天皇の陸軍正装姿とガーター勲章を佩用した肖像写真、雍仁親王(秩父宮)・宣仁親王(高松宮)も撮影。

大正政変・・・1913＝59歳： 華族500家あまりを紹介する一種の紳士録「華族画報」が刊行された際にも、それまでストックしてきた写真の複製が多用される。黒田清輝・小川一真とともに、宮内省調度寮囑託員に任じられ、大正天皇・貞明皇后の御真影や皇族の写真撮影を担当、同時に奏任官待遇となる。

第一次大戦始1914＝60歳： 昭憲皇太後の大葬の模様を撮影。

21ヶ条要求・1915＝61歳： 小川一真らとともに、設立に尽力した東京美術学校臨時写真科が設立され、弟子の前川謙三が“修整実習”を担当。大正天皇の御真影を撮影し、大札記念章を授与。

民本主義・・・1916＝62歳： 長男利雄が急逝。貞明皇后の御真影を撮影。裕仁親王(昭和天皇)の立太子の礼で、沿道などを撮影。

ロシア革命・1917＝63歳： 勲六等瑞宝章され、

原敬首相暗殺1921＝66歳：

関東大震災・1923＝68歳： 弟子の前川謙三が講師となる小西写真専門学校(東京工芸大学)が創設された年、没した。関東大震災が起こり、その後の都市計画に同館がかかるため、写真館も廃業となる。